

- 調査対象 社外の人と月に1度以上打ち合わせをする20～50代のビジネスパーソン（対象地域は東京都、大阪府）
- 調査方法 インターネット調査
- 有効回答数 1,000人（東京都500人、大阪府500人）
- 調査時期 2021年10月21日～10月25日

世の中を読むデータ

仕事上のオンラインコミュニケーションに “慣れた”人は 64.3%

コロナ禍における行動制限は、オンラインによるコミュニケーションの普及、常態化を促した半面、実際に会えないことによる弊害も指摘されている。

今回は、社外の人と月に1度以上打ち合わせをするビジネスパーソンを対象にした調査から、昨今のコミュニケーションの実態についてみてみたい。

初対面の社外の人との出会いが減った ……**67.4%**
これまでのつながりが希薄になった ……**38.2%**

2021年を振り返って“初対面の社外の人と出会う機会”について聞いたところ（実際・オンライン問わず）、全体の67.4%（「とても減った」37.8%、「少し減った」29.6%）、およそ7割の人が出会いの機会が減ったと回答している。

また、コロナ禍にあった2020年と2021年について、これまでに仕事でつながっていた人との関係性について尋ねたところ、「つながりが強まった」は6.2%、「つながりを維持できた」が55.3%、「つながりが希薄になった」は38.2%となっている。

オンラインコミュニケーションに“慣れた” ……**64.3%**

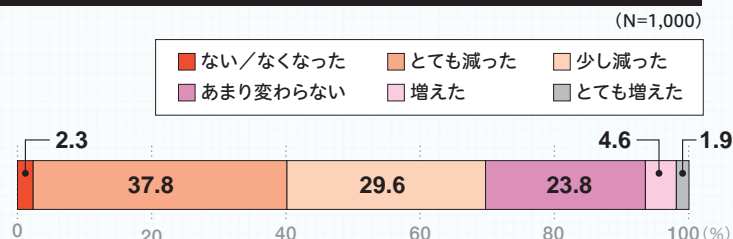
一方、リモートワークなどによ

り増えたオンラインコミュニケーションの“慣れ”については、昨年よりも「慣れた」と感じている人が64.3%（「とてもそう思う」20.9%、「そう思う」43.4%）となり、コミュニケーションの手段としてすでに定着しつつあること

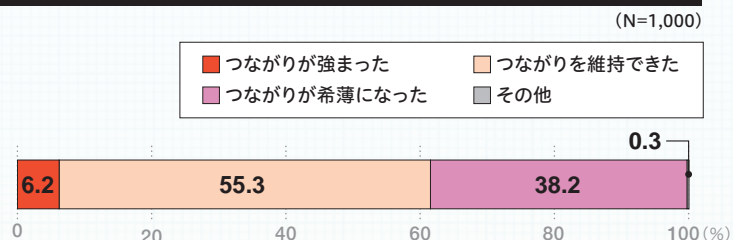
が窺える。

こうした“慣れ”は、仕事上における出会いの機会や関係性の維持が“オンライン化”する予兆といえなくもないがどうであろうか。（インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊）

2021年を振り返って、仕事において、初対面の社外の人と出会う機会に変化はありましたか



2020年、2021年を振り返って、それまでに仕事でつながっていた人との関係性に変化はありましたか



2020年と比較して2021年の方が仕事でのオンラインコミュニケーションに慣れたと思いますか

